

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立二葉特別支援学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校児童生徒 93名 本校職員 114名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育科、外国語科、自立活動、総合的な学習の時間） ② 行事名（先輩との交流会） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	○東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて期待感を持ち、雰囲気を楽しむことができる。 ○スポーツに興味・関心を持ち、身体を動かすことや、スポーツ観戦を楽しむことができる。 ○日本の伝統や世界の文化を学んだり、友達と一緒に体験したりする中で、日本と世界の国々への興味・関心を高め、また友だちと交流する楽しさを実感することができる。
5 取組内容	各クラスの授業内容に関連させて取り組んだオリンピック・パラリンピック教育 ○訪問教育 小学部1年生 自立活動「オリンピック・パラリンピックを楽しもう」 ・ 点火台への点火や、いろいろな人が係わって聖火を運んできたことや7月に開催する東京オリンピックでも、聖火台への点火があることを、過去のオリンピックの動画を見ながら伝えた。聖火台に点火されたあと、勢いよく炎が上がる様子をよく見ていた。動画が英語版だったことで、アナウンスをききながら、不思議そうな表情をしていたので、外国の言葉であること、いろいろな国の人がいることを伝えた。 ・ スポーツの紹介場面では、実際に使う用具にふれる時間を設定した。野球の用具を使ったときには、金属バットに興味を持ち、握る様子が見られた。また、体の上にバットをのせられたときには、その重さに驚いていた。

○準ずる教育課程 小学部6年生

外国語「Olympics and Paralympics」

- オリンピック・パラリンピックの競技名をピクトグラムを見て言ったり、好きなスポーツ選手のポスターを作り紹介したりすることができるように、活動を設定した。
- オリンピアであるフィギュアスケート選手の浅田真央さんやNBA プレイヤー2名をそれぞれの児童が選び、スポーツ選手の名前、競技名、出身地、得意なことや感想などを、英文で記入した。
- 浅田選手を選んだ児童は、浅田選手が出場していた TV 番組を家族で見たことがある体験を思い出し、「氷の上でジャンプできるなんてすごいね」と話していた。NBA 選手を選んだ児童は、バスケットボールのテレビ鑑賞や実際にプレーすることも好きで、よく NBA のことについて話す姿が見られた。



学校全体で取り組んだオリンピック・パラリンピック教育

○先輩との交流会

関東パラ陸協登録F43砲丸投げ・円盤投げ選手の細野翔大様、DET 群馬代表の飯島邦敏様をお招きした。対面での交流会を予定しているが、新型コロナウイルス対策として、オンライン実施の場合もあるため、事前指導はオンラインで行った。当日は、予定通り対面形式での実施となった。事前指導、当日の様子は以下のとおりである。

【事前指導 ～オンラインを活用して～】

- 交流会参加児童生徒の顔合わせとして、一人ひとり自己紹介を行った。学年、名前、今年がんばっていることなどを添え、それぞれの方法で自己紹介をした。自己紹介をする友だちの姿をじっくりと見たり聞いたりする姿が見られた。
- NHKの東京パラリンピックを取り扱うサイトに掲載されている動画『パラリンピックにしかない「投てき種目」の原型は古代の武器!』を活用して、クイズに取り組んだ。ある児童は、クイズに興味を持ち、インターネットを活用して自ら調べる様子が見られた。

【交流会当日】

- 交流会は、児童生徒の自己紹介、講演、座談会を開催した。講師による講演会では、砲丸投げ・円盤投げでパラリンピックを目指している細野様から、自身の遍歴やスポーツを始めたきっかけ、現在の心持ち、得意なことを伸ばしていくこと・苦手なことにも挑戦することの大切さについて、ご経験を踏まえてお話をいただいた。
- 座談会では、生徒一人一人が将来の夢について語り、講師から前向きなアドバイスをいただいた。ある生徒は、細野さんがパラリンピックを目指しているということを知り、「僕も自分の将来の夢をかなえられるようにがんばりたい」と、講師へのお礼の言葉で伝えていた。
- 講演や座談会の合間には、細野様が使用している円盤や砲丸を見たり触ったりして重さを感じた。また、飯島様が使用している電動車いすのレバーやタイヤ、ライトなどを自分の電動車いすと比較し、質問する様子が見られたり、「失敗するのは怖いけど、頑張ってみようかな」と感想を述べたりしていた。講師のお二人が積極的に児童生徒とかわかってくださったため、児童生徒の学びがより深まったように思う。



自己紹介をする様子



競技用の円盤を持たせていただきました



講演会



座談会

○準ずる教育課程 小学部・中学部

小中交流会～ボッチャをとおして～

活動の場を広げることをねらいとして実施している、小中交流会を活用して、準ずる教育課程の小学生2名と中学生5名が、一緒にボッチャに取り組んだ。小中の交流会は、本校で数年前から取り組んでおり、昨年度の準ずる教育課程の交流会でも小学部対中学部でボッチャをプレーして、親交を深めている。

- ・ 今年度は小中混合チームを2チーム作り、交流を行った。投球フォームは児童生徒一人一人異なり、ボールを投げたり転がしたりと様々である。勾配具を使用する児童は、「ランプ」や雨樋を加工して作成した補助具の中から使いやすい物を自分で選択して、ボールを転がしてプレーした。また、ルールについても、児童生徒の実態に応じて、柔軟に対応している。
- ・ 同じチームの友だちが投げるときには「がんばれ」と声をかけたり、投球後には拍手をしたりする姿が見られた。
- ・ ボッチャのレフェリーが使用する審判用具を教師が活用し、試合のような雰囲気になるようにしたり、ルールを確認したりして、ゲームに取り組んだ。



ジャックボールめがけて投げました



得点を確認する様子



補助具を使用してボールを転がす様子

6 主な成果

○オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心の向上
 今年度、東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことから、オリンピック・パラリンピックをはじめ、スポーツに対する興味・関心が高まる児童生徒が多くいたように感じる。オリンピック・パラリンピックシーズンには、家庭で観戦した児童生徒がおり、2学期になると友だちや教師との会話の中で、オリンピック・パラリンピックの話題が上がることもあった。東京での開催ということで、児童生徒がより身近にオリンピック・パラリンピックを感じることはできたのではないかと考える。

○オリンピック・パラリンピックスポーツの体験
 本校では、日頃の授業からパラリンピックスポーツである「ボッチャ」に取り組んでいる。今年度も引き続きボッチャを体育等の授業で取り扱い、親しむことができた。東京パラリンピックでボッチャをテレビ観戦した児童生徒の中には、初めてボッチャの試合の様子を観た子どもたちが多く、選手のプレーに感動したと学校で述べていた。

	<p>○スポーツを通じた交流</p> <p>スポーツに取り組んだりスポーツの話題を取り上げたりして、様々な交流をすることができた。小中のボッチャ交流や先輩との交流会をはじめ、教育実習生とのかかわりの中でボッチャを取り上げたクラスもあった。スポーツを通じて児童生徒同士がかかわりを深め、スポーツを互いに楽しむことができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>児童生徒の実態差が大きい本校の実情から、クラスや小集団での活動を中心に取り組んできた。オリンピック・パラリンピックに直接焦点を当てた活動のみではなく、児童生徒の実態に応じてそれぞれのオリンピック・パラリンピック教育となるように学習内容を工夫した。</p> <p>児童生徒が主体的に操作できるような補助具や、扱いやすい素材、動きやすい配置、理解を促すための視覚的な教材等を工夫して、活動の幅が広がるように支援してきた。</p>
8 主な課題等	<p>感染症対策への配慮や授業時間の確保等を鑑み、今年度は活動が制限されてしまうことが多かった。</p> <p>本校のように健康面や学習面、身体の動き等において実態差のある学校では、取り組み内容を柔軟に検討する必要がある。児童生徒の興味関心を生かしながら、どのような形で学習を進めていくことが有効なのか検討していく必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度はオリンピック・パラリンピックが開催された年であり、オリンピック・パラリンピックに対する児童生徒の興味・関心も高まっている。児童生徒のスポーツを楽しむ気持ちをさらに育ていけるように継続して指導を行っていきたい。</p> <p>また、本校においてボッチャはなじみのある活動となってきた。今回の東京パラリンピック選手の方々の活躍によって、社会的にも認知されるようになってきていることから、年に数回行われる他校との交流会(今年度は間接交流で実施)の場を活用して、本校の児童生徒がボッチャ等のパラリンピック競技を広める一躍を担えるとよい。</p>

小学部知的代替の教育課程体育の授業では、パラリンピックのレガシーの一つである「パラ種目に興味関心をもつこと」と、「ボッチャをより深めること」をねらいとして、日本ボッチャ協会の方を講師に招いてボッチャ体験授業を行った。前半に、ボッチャの歴史やルールに関する動画を視聴した。視聴中に「え！？そうだったの。」「すごい。」という児童の姿が見られた。後半に投球練習やミニゲームを行った。新聞紙の上にボールを乗せる投球練習やミニゲームでは、「できるかな？」「よっしゃー。乗った。」「あー！おいしい。」と声を出したり、「いいねー！」と友達のショットに関心をもったりして取り組んでいた。ミニゲームが終わると、児童からは「えー！？もう終わり？もっとやりたかった。」という声が聞こえるほど充実した活動になった。振り返り時に、「もっと上手になりたい。」「世界を目指したい。」という児童の姿が見られ、パラ種目ボッチャに対する関心をとて高めることができた。



前半：ボッチャの歴史・ルールを学んだり、新聞紙の上にボールを乗せる練習に取り組んだりした。



後半：日本ボッチャ協会の方からボールの握り方や戦略を教わった。

中学部準ずる課程と知的代替の教育課程の体育の授業では、チームメイトと協力することやルール・安全を守ること、楽しく取り組むことをねらいとして、ボッチャの授業を行った。単元の前半では「ヒット」と「アプローチ」の技能を高めるために、ボッチャのボールを使ってボウリングやマス取りをした。後半ではチームに分かれてリーグ戦を行った。ナイスショットが出たときには大きな声で「やったー。」と声を上げる生徒がいた。「ボールに近づけられるように投げられた。」と技能の向上を感じられた生徒もいた。



「アプローチ」練習のマス取りゲーム。



「ヒット」練習のボウリング。